



発行
 枕崎市
 教育委員会
 生涯学習課

枕崎市では学校応援団などのボランティアの方々が、寒さに負けずに子供たちと様々な地域学校協働活動を行っています。今月は学校で行われた外部講師による活動を紹介します。

～持久走大会で 県下一周駅伝選手が 子供たちの伴走～ 別府小学校

別府小学校では2月17日に持久走大会があり、県下一周駅伝川辺チームの茅野智裕(鹿児島大学4年)、倉村空(樟南高校3年)、松元賢蔵(鳳凰高校3年)、栗野将(鹿児島商業高校3年)の4選手が子供たちの伴走をしてくれました。



校庭を1周してから道路へ向かう

持久走大会は、1・2年生800m、3・4年生1200m、5・6年生1500mですが、それぞれ男女別にレースがあり、4選手は6レース全てに伴走し、先頭を引っ張ったり、中盤で子供たちに声を掛けたりして、合計7キロを子供たちと一緒に走りました。

子供たちは駅伝選手の軽快な走りに驚きながらも、頑張っ一緒に走り、閉会式では「頑張れ頑張れ川辺チーム！」と大きな声で選手達にエールを送っていました。



5・6年男子のトップに伴走

～血液と献血について学びました～ 立神中学校

立神中学校では1月19日に、3

年生が学校薬剤師の横市秀文先生と一緒に「血液」と「献血」について学びました。



血液は栄養や酸素の運搬、免疫など人間の生命を維持するために欠くことのできないものです。輸血で血液を必要とする人の数は、1日平均3千人以上といわれています。科学が進歩した現在でも、血液を人工的に造ることはできません。

高校生(満16歳)になったら献血ができるようになります。健康を維持するために必要な血液と献血、「献血は命をつなぐ助け合い」だということを学びました。



学校応援団ボランティア 募集中! 詳しくは生涯学習課まで TEL76-1286

～協力隊OBがラオスの子供たちの話～ 桜山小学校

桜山小学校では2月7日に6年生の授業で、枕崎市別府でお茶農家を営んでいる青年海外協力隊OBの近森章さんの話がありました。

近森さんはラオスで出会った子供たちについて、写真を見せながら次のような話をしてくれました。

ラオス人の80%は農家であり、家には水道もきていない。子供たちは農村内の学校に通っているが、毎日朝と夕方には水汲み場で水を汲んで家まで運ぶ。学校が休みの日には、農産物を市場に運ぶ手伝いをする。また、田植えや稲刈りの時期は学校が休みになり、家族総出で田植えや稲刈りをする。



ラオスの民族楽器「ケーン」を演奏



ラオスの子供たちは、農村の中でお手伝いを通して大人になるための準備をしている。

どこの国でも子供の時期は「大人になるための準備期間」である。一つひとつの経験を大切に、積み重ねていくことで、きっと素敵な大人になれると思う、と話をしてくれました。

6年生のクラスからは「ラオスの子供たちは、小さい時からいろんな手伝いをしてすごいと思った。」などの感想がありました。

～栄養教諭の先生と「食についての学習」～ 桜山中学校

桜山中学校では1月21日に、給食センターの坂元栄養教諭が来校して「食についての学習」を行いました。全校生徒を新体育館に集めて行う予定でしたが、新型コロナウイルス感染防止のため各学級でのオンラインでの授業となりました。

坂元先生からは「学校給食について」と「朝食について」の二つのテーマについて話があり、学校給食は食材の生産者、調理や配送をする人など多くの人に支えられていること、給食を美味しく食べてもらうために、献立や調理方法に色んな工夫をしているとの説明がありました。



会議室から講話を行う坂元先生



2年生の教室の様子

毎月24日は「鯉節の日」で、地元の食材を知ってほしいとの思いで「ふしの日給食」を実施しており、枕崎水産加工組合から毎月7キロの削り節(本枯節)が無償提供されているとのこと。

また、朝食を抜くと昼食まで脳に送られるエネルギーが不足すること、朝食を抜いている子供は、学力、体力ともに低い傾向にあり、栄養バランスの取れた朝食を摂ることが大事であるとの話がありました。

子供たちに人気のバイキング給食やセレクト給食の写真も紹介され、楽しい「食についての学習」になりました。